

楽しくて 力のつく授業 [2]

—リスニング力をつける指導—

二宮正男 Ninomiya Masao (東京都新宿区立西戸山中学校)

①はじめに

リスニング力をつけるためにどんな指導をしているだろうか。授業を英語で行ったり、授業中にリスニング問題をやっている先生も多いだろう。またALT (Assistant Language Teacher) との面接練習を取り入れたり、英語の歌を取り入れている先生もあるだろう。しかし、読解力や文法力をつけるための練習に比べ、その回数や量は少なくはないだろうか。

②指導と評価の一体化

授業中に教科書のリスニング問題をやっただけでは、生徒には定期テスト前にどんなリスニングの学習をすればよいかわからない。

「教えたことを評価する。教えていないことは評価しない。」しかし、リスニングに対しては指導と評価が一体化していないことが多い。

リスニング問題は解答を○×か記号で選ばれる形式がほとんどである。CDなどを聞かせて答え合わせをし、それで練習を終わらせてはいないだろうか。しかし、答え合わせをただけでは指導したことにならない。それだけで済ませてしまえば、生徒がどうして聞き取れなかったのか、何が原因かがわからないままになってしまう。

それでは、どのようにリスニングの練習をすれば指導したことになるのだろうか。それには、どのような到達目標を立てて評価するのが明確でなければならない。今回の観点別評価の「聞くことの評価規準」は次の2点である。

(ア) 正しく聞き取る

(イ) 具体的な内容や大切な部分を適切に聞き取る (適切な応答も含む)

この両方ができるように、リスニング練習をさせていかなければならない。

③文字による内容理解

聞き取れない主な原因として次の3点があげられる。

- (1) 話される英語の速度が速すぎる
- (2) 英語の音・音変化を正しく認識していない
- (3) 語彙不足のため内容を正しく理解できない

文字に比べて音声は瞬時に消えていってしまうので、話される英語が速すぎると理解できない。そこで生徒に文字を見せて自分のペースで理解させてみればよい。そのためには、教師は答え合わせのあと、スクリプトを配って生徒に自分のペースで内容理解させるとよい。声を出して音読させることも大切である。それでも内容を理解できない生徒の聞き取れなかった原因は、速度や音認識のせいではない。英語の意味がわからなかったからだと自分でも理解できる。つまり、英文を「読んでわからないものは聞いてもわからない」のだ。

リスニングの練習で、生徒が自分のつまずきを理解して初めて指導したといえるのではないか。再度音声を聞かせても間違う生徒には、ぜひスクリプトを読ませて内容確認をさせてほしい。つまずきに気づいて、次にできるようになったときの自信がやる気につながるのである。

④リスニング力をつけるための練習を計画する

リスニングの力をつけるために、以下の4種類の練習ができるよう計画する必要がある。

(1) 内容理解の練習

内容理解の練習には、絵を選ばせる練習がある。しかし、絵で表現しにくい内容も多いので、キーワードを書かせる練習がよい。ある程度まとまった文章を聞かせてキーワードをメモさせる練習を積み重ねると、大意を把握する力がついてくる。

しかし、入門期の生徒にとってキーワードをメモ

するのは難しく、最初は聞こえてきた英語を全部書こうとしてしまう。何がキーワードかがわかるようになるためには、speaking 練習のときに原稿を書かせず、黒板に提示したキーワードだけを使って speech をする練習を積み重ねておくとよい。この活動を毎時間繰り返すことによって、listening strategy が身について、リスニング音声中のキーワードを上手にメモできるようになる。

I teach Japanese to Paul. He teaches English to me. We help each other.

(NEW CROWN 1年 p.78, 2006)

(2) 正確に聞き取る練習

音声を単語レベルまで正確に聞き取らせる練習には、shadowing や dictation が効果的である。shadowing とは聞こえてくる音を即座に真似をして声に出す活動で、同時通訳者養成訓練においてしばしば行われる。私は次のように3段階の shadowing の練習方法を行っている。

①まず、教師はこのページを最初から読み上げて任意の箇所、例えば key sentence である So he can speak it a little. を読み終わった時点で読むのを止める。

②生徒は教師が読み上げた最後の1文 So he can speak it a little. だけを書き取る。

私は3年生の後半の授業では、DVDで映画の一場面を見せてストップさせ、最後の1文を書き取らせる活動も取り入れている。例えば、次の会話は『ローマの休日』で、ジョーのアパートを出た王女が、アパートの中庭でまたジョーに会う場面である。

①教科書の本文を見ながら、流れてくるCDに合わせて parallel reading する。

②次に教科書の本文を見ないで、CDの英語を追いかけるように shadowing する。

③ときどき使用教科書以外のものを使い、英文を見ないで shadowing する。あとでスクリプトを配ってもう一度聞く。このとき、1学年下の教材(教科書)を利用すると、音声ばかりを追いかけて内容理解まで及ばないということを防ぐことができる。

Joe: Well... small world!
Princess: Yes. I almost forgot, can you lend me some money?
Joe: Oh, yeah... that's right, you didn't have any last night, did you?

(『ローマの休日』, ウィリアム・ワイラー, バラマウント ホーム エンタテインメントジャパン, 1953年, 米国)

生徒には①と②の練習方法を家庭学習としても行うように言っている。教科書の音声CDを希望者に購入させ、家庭でも練習できるようにしている。

①この場面は簡単な場面なので、字幕なしで見せる(生徒の実態によっては、最初に日本語の字幕付きで見せて内容理解させてから、再度字幕なしで同じ場面を視聴する)。

②教師は that's right. の台詞で映画をストップする。

③生徒は最後の1文 that's right. だけを書き取る。

dictation も正確な聞き取り練習に効果的である。ただ、shadowing と違って spelling をすべて正しく書き取るのは難しい上に、教師側も採点が面倒であることから、毎時間継続して実施するのが難しいという問題点がある。

④教師は DVD の字幕を英語にしてもう一度この場面を字幕付きで見せて、生徒に答え合わせをさせる(生徒の実態によっては1つ前のジョーの台詞, can you lend me some money? を書かせてもよい)。

そこで、dictation を Last Sentence Dictation (LSD) で行っている先生方も多いと思う。聞かせるパッケージとしては、既習の教科書本文を使うと復習にもなる。

(3) 速さに慣れる練習

リスニングは聞くだけでは力がつかなくて、リーディングによる内容理解も必要なことは述べてきた。ここではさらに、「話せることは聞き取れる」ということにも注目したい。

I study English. So I can speak it a little. Paul studies Japanese. So he can speak it a little.

昨秋の全英連大会で来日した英国バーミンガム大学の Dr. Richard T. Cauldwell は “Listening and

speaking are both sides of a coin.”と繰り返し
言っている。彼の「英文を速度の違う読み方で3回
読む練習」を紹介しよう。

- ① 1回目はゆっくり正確に読む
- ② 2回目はできるだけ速く読む
- ③ 3回目に自然な速度で読む

まずゆっくり正確に発音できるようにしてから次
に速く読むと、3回目は自然な速さのはずなのに随
分ゆっくり読んでいるように感じる。

このような読む練習を行ってから音声を聞くと、ど
のような英文でも聞き取れるようになる。リスニング
もスピーキングもどちらかだけが個別に伸びるのでは
なく、両者は同時に伸びていく能力なのである。

(4) Authentic な教材での応用練習

多くの生徒は、教室で「日本人教師」と「ALT」
と「教科書の音声 CD」の3種類の英語に接するだ
けではないだろうか。そこで ALT を活用して教材
を作ってもらおうとよい。

学校に来ている ALT に教科書を録音してもら
うだけでも、生徒にとっていつも聞いている教科書の
音声 CD の英語と違った魅力的な教材となる。

また、授業中に話せばその場限りで終わりになっ
てしまう ALT の自己紹介などを録音しておいて、
半年後や1年後の学年に利用する方法もある。

右上の表は、NEW CROWN をもとにした、い
つでも使えるテーマである。西戸山中学校には、こ
のテーマ以外にも次のような海外の行事や文化を1
年生レベルから3年生レベルまでにわけて録音した
テープがある。

- 1 学期 Independence Day
- 2 学期 Halloween, Thanksgiving Day, Christmas
- 3 学期 New Year's Day, St. Valentine's Day

アメリカ合衆国出身の ALT に録音してもらった
テープが多いが、その他の国出身の ALT の教材も
増やし、リスニングを通して生徒にさまざまな異文
化を理解させていきたいと思っている。また、その
スクリプトを印刷して生徒に配ればリーディング教
材としても活用できる。最後に示したものは本校の
ALT の Mr. Minning に作成してもらったものであ
る。

⑤ おわりに

区や市の英語部会で、このような教材を共有する
ことを提案したい。複数の ALT の音声教材を集め
て、楽しくリスニング力を伸ばしていくというのは
いかがだろうか。

ALT に録音してもらったテーマ

1年	自己紹介(名前, 出身国, 得意な遊びやスポーツ, 好きなこと・もの), 家族・友だち・有名人の紹介, 海外の学校生活, できること・できないこと, 冬休みのできごと
2年	過去形で自己紹介(出身国, スポーツ, 季節など), 週末や夏休みの予定, 学校や町にあるもの・あったもの, 将来の夢, 海外の紹介
3年	現在完了形で自己紹介, 行ってみたい地域・場所とその理由, 中学校生活の思い出

(2年生レベル)

Brian's Christmas

December 25th is one of my favorite days because it's Christmas! On Christmas, people can relax with their family, give presents, and have a big Christmas dinner. So I think that Christmas is a fun and important day.

In America, children love Christmas because they get presents from Santa Claus. I got many nice presents when I was a child. When I was twelve, I got a new bike! I think that it was a great present.

On the night of December 24th, Santa visits children around the world to give them their presents. But he doesn't give presents to all children. If a child is good, Santa will give the child a present. But if a child is bad, he won't give the child a present.

Many families have a big Christmas tree in their house. There are many beautiful lights and decorations on the tree. I think Christmas trees are very beautiful at night. On Christmas morning, children sit under the tree and open their presents. Later, everyone enjoys a big Christmas dinner. There is turkey, ham, cake, and much more! It is a great day for everyone to enjoy.